

フラッシュカードで漢字（熟語）の覚え方 (USING FLASHCARDS TO MEMORIZE THE KANJI JUKUGO)

Dyah Prasetiani
Semarang State University
lovelydee_kh@yahoo.com

ABSTRACT

Learning *kanji* is generally difficult for the Japanese learners because its figure, stroke order, and pronounce (*onyomi* and *kunyomi*) are difficult to remember. Moreover, every object in the world is presented by *kanji*. Thus, practically there are large in numbers of *kanji*. Remembering all the *kanji* and also the *jukugo* is not easy. Most of the students may easily forget it soon after they learn it. Therefore, they have to find effective, fun, and easy learning methods to improve their ability in mastering *kanji*. The bottom line is that they must consistently review the *kanji* they have learned to ensure that they would never-ever forget them. Otherwise, no matter how memorable the *kanji* are, they make up its nature to start forgetting and lose track of them once they start learning their 500th *kanji* and beyond. Flashcards could be a good solution to overcome the problem. It could help students consistently review the *kanji*, especially the *jukugo*.

Key Words: *kanji*, *jukugo*, flashcard, *onyomi*, *kunyomi*

序論

日本語において平仮名や片仮名や漢字やローマ字のような4つの文字がある。平仮名は和語及び漢語を書くための文字で、片仮名は外来語を書くための文字である。平仮名及び片仮名は漢字から作られ、一字は意味がないので表音文字と呼ばれる。漢字は中国特に「かん」の王朝から来た文字なのでかんの文字「漢字」と呼ばれる。一字は意味を表すことができる。だから表意文字と呼ばれる。

日本の文字の中では日本語学習者にとって一番難しいのは漢字である。それは漢字は音読みと訓読みがあり、一字は一つ以上の読み方を持っているからである。例としては、「生」の字は「なま」、「い」、「せい」、「しょう」などが読まれる。また、画数も熟語も多いため覚えにくくなる。さらに、一字の漢字は意味があるため、漢字の数はほとんど世界にあるもの数と

同じだ。大漢和辞典には漢字が50000字あるが、文部省は日本人が使用した漢字は約1945字を決めており、常用漢字表と呼ばれる。

上述した難しさはスマラン国立大学の日本語学習者にとっても問題になる。それは漢字初中級の科目の評価やインタビューの結果を見て、分かる。つまり、授業のとき、いくつかの学生は先生の質問を正しく答えられない。理由は多くの漢字（一回に40熟語くらい）を覚えなければなるまいため混乱になるからである。復習のときにも学生達は先週勉強した漢字が少ししか覚えられない。理由は学生が家であまり漢字を復習しないし、カードのような教具を持っている学生も少ない。

また、読み練習のとき、漢字（熟語）の読み方が覚えれないから前のページをよく開けて読み方を調べたので少し時間がかかった。期末試験の結果は70点以上を取った学生率はただ52%だけである。残りは約48%、70点以下を取った。つまり、三学期学生の漢字能力はあまり高くないと言える。もっとよく読み練習をしたほうが良いと思う。

今まで漢字の覚え方は覚えつつ、何回も書く。学生に「覚えられないことは何度も書いて覚えなさい」とよくアドバイスする。その方法は時間がたくさんある学生にとって良く当たり前である。だが、最近、多くの学生はアルバイトしつつ授業を受けるので家あるいは職場で漢字の書き練習あるいは読み練習ができない。そのために、もっと効果的な漢字の覚え方が要するだろう。できるだけ短い時間で漢字の読み練習あるいは書き練習をすることができる。

さて、フラッシュカードは一つの教具として上述の問題を解決すると思う。なぜなら、学生はフラッシュカードを使ったら、各漢字は瞬間的に見るので短い時間で漢字主に読み方及び意味を覚えられるからである。また、漢字の書き方は空画で言いつつ暗記することができる。

つまり、学生は普通、教科書を使って漢字を復習するが不便だと思う。他のもっと適切な教具が要る。フラッシュカードは漢字を何回も読み練習する教具として便利だと思う。いつでもどこでも練習することができる。よくフラッシュカードで漢字を練習したら、すばやく見せて連続するので多くの漢字（熟語）も早く覚えられるからである。漢字は読めば読むほど覚えやす

くなるのである。この教具で漢字の覚え方は易しく、便利で、面白く、効果があると思う。

本論

1. 漢字の歴史

漢字とは漢民族の間で発生した表意文字の 1 つであり、中国語や日本語等を表記するのに使用される文字である (dic.nicovideo.jp/a/漢字)。

漢字が生まれたのは古代の中国特に漢の王朝の時代である。日本には漢字が伝来したのは 4 世紀に言われている。そのとき、多くの中国人が日本で働いた。それで、日本の生活が大きく散歩した。その生活進歩の理由については、

5～6 世紀には、多くの人々が朝鮮半島や中国大陸から渡ってきて、日本に住むようになった。この人たちは渡来人あるいは帰化人と言われる。政府はこの人たちに土木、養蚕、織物などの仕事をさせたり、役所で漢字を使用して記録や計算、外交文書の作成などの仕事をさせたので、進んだ技術や知識が伝えられ、日本の生活が大きく進歩した。(日本語教育学会 1988、p. 5)

と述べている。

次は 7 世紀頃に漢字が日本でも使いこなせる物になっていたと言われる (Dic.nicovideo.jp/a/漢字)。漢字の読み方には中国での読み方に由来する音読みと、対応する意味の日本語を当てはめ漢字の読みとした訓読みの 2 種類の読み方を決めた。

2. 漢字の六書

六書とは、[漢字](http://dic.nicovideo.jp/a/漢字)の造字および運用の原理を 6 種類に分類したもの。すなわち、[象形](http://ja.wikipedia.org/wiki/象形)・[指事](http://ja.wikipedia.org/wiki/指事)・[形声](http://ja.wikipedia.org/wiki/形声)・[会意](http://ja.wikipedia.org/wiki/会意)・[転注](http://ja.wikipedia.org/wiki/転注)・[仮借](http://ja.wikipedia.org/wiki/仮借) (<http://ja.wikipedia.org/wiki/六書>) である。

漢字には物・動物・人体の絵から作られた物 (象形文字) や、点や線を組み合わせた物および象形文字にしるしなどを加えて作られた物 (指事文字) が存在する。象形文字の例は「山」「川」「鳥」で、支持文字の例は「上」「中」「下」などである。

一方、これらの象形・指事文字を組み合わせて作られた漢字もあり、ある意味を表すため関連する要素を組み合わせて作られた物 (会意文字) や、意味を表す要素と読みを表す要素を組み合わせて作られた物 (形声文字) が存在する。「休」「森」は会意文字の例で、「頭」は形声文字の例である。既成の会意・形声文字にさらに別の要素を加えて作られた漢字もある。漢字の多くは会意・形声文字に属している。

[転注](#)は用字法の一つとする説が有力であるが、定説はない。[仮借](#)は他の同音・類字音の字を借用すること。「わたし」の意味に「我」、「そうだ」の意味に「然」、「くる」の意味に「来」などである (dic.nicovideo.jp/a/漢字)。

3. 漢字の特徴

漢字はいくつの特徴があり、それぞれ次のように説明する。

A. 漢字の部首

日本ではこれらの要素に対し、漢字の中で使われる位置および形に応じて、以下のような名前と呼ばれている (dic.nicovideo.jp/a/漢字)。

- **偏** (へん).....漢字の左側に位置する要素。にんべん (亻)、さんずい (氵)、きへん (木) 等。
- **旁** (つくり).....右側に位置する要素。りっとう (冫)、おおざと (阝)、おおがい (頁) 等。
- **冠** (かんむり).....上側に位置する要素。うかんむり (宀)、くさかんむり (艹)、たけかんむり (竹) 等。
- **脚** (あし).....下側に位置する要素。ひとあし (儿)、れんが (灬)、したごころ (小) 等。
- **垂** (たれ).....上・左側を占める要素。がんだれ (厂)、まだれ (广)、やまいだれ (疒) 等。
- **繞** (にょう).....下・左側を占める要素。しんにょう (辶)、えんにょう (廴)、そうにょう (走) 等。
- **構** (かまえ).....内側の要素を覆っている要素。もんがまえ (門)、ぎょうがまえ (行)、くにがまえ (口) 等。

漢字に含まれるこれらの要素によって漢字を分類することが辞書などで行われており、これを**部首**と言われる。

B. 漢字の画数

筆画とは漢字の字体を構成する要素の一つで、最小の単位である。点画ともいう。筆を下ろして書き始め、再び離すことのできる「線」または「点」である。筆画の数を「画数」といい、1画、2画と数える。

部首と画数は辞書を国語辞典などで漢字の分類や意味などを調べるのに採用する。また筆画を並べていく順序を筆順という。

C. 漢字の筆順

漢字の筆画を組み合わせると、1字を書きあげるときの順序を筆順という。筆順はだれがきめたというのではなく、古人が何代にもわたって考え出した知恵であるから、きわめて合理的、かつ能率的である。したがって漢字習得にあたっては大いに利用すべきである。つぎに、文部省の《筆順指導の手びき》によって、およその原則を記しておく。(1)上から下へ書く。〈三〉。(2)左から右へ書く。〈川〉。(3)横画と縦画が交差する場合。

いくつかの筆順は次のようである。

丶 てん	一 よこかく・ おおかく	丨 たてかく・ じゅうかく	丿 ひだりはら い	丿し はね
---------	--------------------	---------------------	-----------------	----------

D. 漢字の読み方

漢字の読み方は特徴である。なぜなら、多くの漢字は音読みと訓読みを読めるからである。おそらく、一字は一つ以上音読みと訓読みを含まれており、例えば「形」は訓読みで「かたち」「かた」と読み、音読みで「ケイ」「ギョウ」と読む。同じ漢字は自立したら訓読みと読み、熟語にしたら訓読みが読める。例、「力」は訓読みとして「ちから」と読まれ、熟語にしたら「能力」は音読みとして「ノウリョク」と読まれる。

しかし、熟語は全部音読みを読まれ、熟語の読み方は四つある。それは
:

1. 音読みと音読み → 例：手術 ‘シュ ジュツ’ (Operation)
2. 訓読みと訓読み → 例：相手 ‘あい て’ (Interlocutor)
3. 音読みと訓読み → 例：小指 ‘コ ゆび’ (Ring finger)
空手 ‘から て’ (Karate)
4. 訓読みと音読み → 例：手不足 ‘て ブ ソク’ (Lack of aid)

4. 漢字の覚え方

漢字を覚え方にはいくつか方法がある。Kokugo.j-tatujin.com/grammar/b01.html には漢字を覚えていくには効率ルールは3つあると分析している。それは、

A. 回数ではなく頻度を増やす。

つまり、学習アドバイスの本には「覚えられないことは何度も書いて覚えなさい」とよく書かれている。しかし、学習者の個人差があるだろう。5回で書いて覚えるようになるが、明日には忘れている学習者も多いだろう。

基本的にその場で覚えたからといっていつまでも覚えているとは限らない。暗記を記憶に変えるためには覚える頻度を増やさねばならない。いっぺんに15回書くぐらいなら、朝昼晩3回に分けて5回ずつ書いたほうが良い。はるかに記憶の定義は違う。

B. 音を耳で覚える。

つまり、漢字の読み書きが覚えられない理由は言葉そのものを認識していないからである。漢字を覚えるためにはまず音声として認識する必要がある。そのためには書けない漢字は何度も口に出させるということが重要である。音声を認識されるようになれば、非常に書けるようになるまでのスピードも上がる。

C. 意味を考えながら覚えていく。

つまり、人は意味のない物を覚えるのは苦手である。意味のある物は想像がしやすいから覚えやすい。多少、長くても覚えられる。漢字は表意文字なので意味を持っており、学習者に漢字を覚える際は意味も一緒に

覚えさせる。あれだけ覚えられなかった漢字がすぐに覚えるようになるはずである。

一方、Heisig (1985)は特徴の漢字覚え方法を作り、基礎漢字の要素で新しい覚え方法を発展する。つまり、格要素をつなげるため、学習者自身がキーワードを決め、mnemonic story を作る。Heisig 氏 (1985) は「漢字の形を覚えるのに visual メモリより想像的なメモリを使用されている (原文英語、訳は筆者)」としている。Heisig のメソッドはただ漢字を認識及び書くことに集中する。だから、彼は紙のフラッシュカードで繰り返す頻度を増やすように勧めた。

上述のことから漢字の覚え方のコツは何回を書く・読むの頻度を増やす、意味を覚えなどをした。

5. フラッシュカードについて

フラッシュには「瞬き」という意味があるように、幼児の目前でカードを高速で裏から表にめくって大量に見せることである (www.star-ship.co.jp/flash/syuuitsu_flash01.html)。つまり、フラッシュカードとは、フラッシュのように目の前で、瞬間的にカードを連続して見せていくことである。

フラッシュカードは紙切れで、大きさはA4サイズを半分に折ったくらい大きさが学習者にとって見やすいフラッシュカードになる。一枚のカードを1秒くらいですばやく見せていく。見せるの枚数は1回に5枚から30枚くらい見せればよいと思われる。

実は、決まっているルールがない。教室の後ろの学習者が見る興味を引くためにA4サイズのが欲しい。大きくなればなるほど厚手の用紙が必要である。また、手で多くの枚数をつかんで注意しねばならない。

フラッシュカードは文字・語彙・絵・数力・文法などいろんな種類カードがある。漢字学習に使用したフラッシュカードは紙の表面に漢字 (熟語) を大きく書き、裏面には読み方を小さく書く。別のカードもあり、例えば表面には画像で、裏面には漢字 (熟語)、あるいは表面は絵及び漢字のようなカードもある。次は漢字と平仮名のフラッシュカードの例である。

表1. 印刷フラッシュカード



フラッシュカードは最近いろんな印刷カードを売られている。オンラインのプログラムもある。しかしながら、手作りもできるし、手書きやコンピューターなどで作ってもできる。

表2. 手作りフラッシュカード



6. フラッシュカードの長所

授業ではフラッシュカードが教具として使われる。Kotobank.jp/word/教具によると教具とは「学習効果を高めるために使用する道具。黒板・掛け図・標本や映画・スライドなど」と記述する。教具の有益について Sumantri (2001) は「教具の有益は効果的な授業及び学習者のモチベーションを上げる（原文インドネシア語、訳は筆者）」としている。

教具としてフラッシュカードの有益は <http://www.youji-kyouiku.jp/01/002/> から次のように分析している。

- フラッシュカードは学習者の集中力を練習される。学習者は瞬間的に連続させてフラッシュカードを見せていくので、集中力や根気が養われる。実際に、フラッシュカードで脳が活性化するというデータも出ている。学習者にフラッシュカードをすばやく見せることで、一瞬の感覚（イメージ・瞬間記憶・ひらめき）が刺激されるため、特に右脳を活性化するといわれている。

- 学習者の能力を最大限に引き出そうとするならば、脳のトレーニングとしてフラッシュカードは、欠かせない。しかし、その反面、短いカットを瞬間的にたたき込むように連続させて見せることに、反対される方もいる。学習者に、強制的にお勉強としてフラッシュカードを瞬間的に連続させて見せるやり方では、学習者が緊迫感を感じるため、学習者の脳の活性化を期待するよりも、精神の歪を作ってしまうのではないかとの心配をするからである。
- 学習者へのフラッシュカードの見せ方は、カードをすばやく、めくるテクニックだけではなく、学習者へフラッシュカードを見せる側が精神的に余裕を持って楽しく見せることが出来るかどうか、ということがとても重要になって来る。

7. フラッシュカードの作り方

フラッシュカードは手書きにすることができる。手が得意人は白い紙で絵を描き、漢字を書く。一年生は写真よりイラストが興味を引いた。

絵も字も下手なので恥ずかしくなったら、コンピューターで作ることもできる。パソコンで作ってしまうと画像・漢字データを探し、プリントアウトし、厚紙に貼りつけると便利になる。例としては「山」を作ると、ネットに探し、山の画像がずらっと並ぶ。イメージにぴったりの画像を選んで使うことができる (homepage1.nifty.com/KONDO/kanji-flashcard.htm)。

むろん、大きい画像が欲しい。カードの大きさは、特に決まったサイズというのではないが、大きすぎるとめくりづらくなるので注意しよう。11ko.jp/16/23/000079.php には「サイズの一例を書いてあるが、カードに大きめの絵や文字を書くときは 26 センチ×26 センチくらいの大きめのものを短い言葉だけでしたら 9 センチ×20 センチくらいの短めのものでいいだろう」と記述する。

切り方の場合は大きさが違うと、かなりめくりづらくなってしまうので、慎重に切ったほうがいい。一番いいのは業者さんに切ってもらうことである。業者、というと、少し仰々しく聞こえるかもしれないが、リズムと速さがフラッシュカードで何より重要な部分である。それくらいしっかりしたものを作ったほうがいいと思います。

手書きでフラッシュカードを作るのは時間がかかると思ったら、エクセル・パワーポイントなどのコンピューターを使ったほうがいい。

8. 漢字学習におけるフラッシュカード

漢字学習教具としてでは手作り物・印刷物・パワーポイントのフラッシュカードが使用される。それらの形と使い方は違う。一応、使い方が簡単で次のように説明する。

まず、漢字学習する前に漢字のフラッシュカードを準備する。手作り・印刷の物は必ずいくつかのカードを手で持つ。カードが多すぎるなら注意しなければならない。次に、教師は学習者に1枚ずつのカードをゆっくり見せて読ませる。できるだけ漢字の意味も言う。全部が終わったら、連続してすばやく見せる。そのあと、学習者は一人ずつカードを瞬間的に読み、必ず読み方も意味も記憶しなければならない。最後に、教師はもう一度全てのフラッシュカードをすばやく見せ、学習者は一緒に漢字の読み方と意味を読む。

パワーポイントのフラッシュカードの使い方は同じである。しかし、パワーポイントなら、もっと便利だと思う。なぜなら、カードはコンピュータで作るので、時間が余りかからない。使い方も簡単である。手で持たないから、落ちなく、気にしないからである。

ここではどちらのフラッシュカードを使用し、復習の頻度を増やさないと、意味がないと思う。一回だけ復習しても効果が余りない。なぜなら、明日には忘れている学習者が少なくないからである。一回で覚えたからといっていつまでも覚えているとは限らないだろう。そのために、フラッシュカードで毎日5分-10分ぐらい読み練習をしたほうが良いと思う。朝昼晩三回にしたらもっと良い。

なお、回数口に出させつつ読み方を覚える練習の頻度を増やさなければならない。書き方を覚える時にも、意味を考えつつ、何度も口に出させるが必要である。

最近、フラッシュカードは発展し、もっといろんなフラッシュカードを作る。オンラインのフラッシュカードも作る。オンラインの場合はインターネットから取られ、勉強・練習・ゲームなどの活動に使用することができる。中には点数があるので学習者自信の漢字能力がすぐ分かる。正しい答えもあるので、読み方を覚えられ、面白くて便利であるう。

しかしながら、多数のフラッシュカードはただ読み練習に集中する。書き練習には使えない。それゆえ、もし書き練習及び読み練習をするフラッシュカードがあったらいいではないか。

教師は自分でフラッシュカードが作れる。例えば、最初に基礎漢字の形を覚えるのに想像的な記憶を使う。漢字の六書の知識を使ってパワーポイントでネットから物・動物・植物・人体の画像をコピーし、学生に何の漢字を作れるかを質問し、正しい答えを見せ、象形文字を教えられる。それで、パワーポイントでその基礎漢字の筆順を見せ、学生は手で空画をしてから、ノートに5回書く。ここで学生は書きつつ意味を考えて読み方を口に出さなければならない。さらに、その基礎漢字からいくつかの作られた熟語をフラッシュカードで見せ、学生に読み方を質問する。ここでフラッシュカードの使い方及び長所を注意する。ちなみに音を出せるのがいいと思う。一回目に漢字の読み方や書き方や発音などを練習できるからである。

結論

多くの学習者は家で勉強時間がないので漢字の読み書き練習をしない。そのために、短い時間で読み書き練習をして覚える教具が要る。フラッシュカードはその問題を解決できると思う。フラッシュカードは一瞬見せ、繰り返し学習に用いられる。テンポがよく、学習を進められる。学習者もただ復習するだけで良いので、学習者の負担も軽く、楽しく、効率がよく、学習を定着させることができる。

漢字〈熟語〉フラッシュカードは手書き・コンピューター・印刷物もあり、使い方も簡単で便利なので、練習として漢字学習に使用したほうがいいと思う。漢字はよく繰り返したら、暗記できる。それはいいでわないかと思う。

しかしながら、フラッシュカードを見せるやり方を注意し、学習者に緊迫感させないでください。

参考文献

- Chieko, Kano. Et al. 1991. *Basic Kanji Book Vol. 2*. Tokyo: Bojinsha Co, Ltd.
Douglas, Masako. O. 1992. *Learning and teaching kanji: For students from an alphabetic background*. Online. www.sabotenweb.com/bookmarks/about/douglas.html [accessed 02/16/12]
Heisig, J. W. 1985. *Remembering the Kanji*. Tokyo, Japan: Japan Publications Trading Co.

Sumantri, M. 2001. *Strategi Belajar Mengajar*. Bandung: CV Maulana

Sudjianto. 2007. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc

Surajaya, I Ketut (ed.). 2001. *Pengantar Sejarah Jepang1*. Terjemahan 日本事情シリーズ
日本の歴史。日本語教育学会. 1988.

Xamuel. *Kanji vs. Romaji*. Online. www.xamuel.com/kanji-vs-romaji [accessed 02/16/12]

漢字とは[単語記事] - ニコニコ大百科. Online. www.dic.nicovideo.jp/a/漢字 [accessed
03/25/13]

漢字（熟語）の覚え方：【国語の達人】中学受験の合否は国語で決まる.
Online. <http://kokugo.i-tatujin.com/grammar/b01.html> [accessed 03/25/13]

教具. Online. <http://kotobank.jp/word/教具> [accessed 03/25/13]

漢字フラッシュカードはこうして作る. Online. [homepage1.nifty.com/KONDO/kanji-
flashcard.htm](http://homepage1.nifty.com/KONDO/kanji-flashcard.htm) [accessed 03/25/13]

六書. Online. <http://ja.wikipedia.org/wiki/六書> [accessed 04/13/2013]

筆順 <http://kotobank.jp/word/筆順>[accessed 04/13/2013]

幼児とフラッシュカード | 幼児教育.com. Online. [http://www.youji-kyouiku.jp/01/002/-](http://www.youji-kyouiku.jp/01/002/)
[accessed 02/2/13]

www.star-ship.co.jp/flash/syuuitsu_flash01.html [accessed 03/25/13]